

公益社団法人日本臨床細胞学会
2019年度第4回理事会 議事録

日時：2020年3月14日（土）14:00～17:00
場所：日本臨床細胞学会事務局会議室（地下2階）

役員総数：43名（理事 40名、監事 3名）

出席総数：理事 32名

（理事）青木 大輔, 板持 広明, 伊藤 仁, 伊藤 潔, 井上 健, 伊豫田 明, 植田 政嗣, 榎本 隆之, 大平 達夫, 小笠原 利忠, 岡本 愛光, 小田 瑞恵, 加藤 久盛, 川本 雅司, 小松 京子, 齋藤 豪, 佐藤 之俊, 進 伸幸, 田畑 務, 都築 豊徳, 中村 直哉, 羽場 礼次, 藤井 多久磨, 前田 一郎, 松浦 祐介, 三上 芳喜, 宮城 悦子, 森井 英一, 森谷 卓也, 矢納 研二, 横山 正俊, 横山 良仁, 若狭 朋子

（監事）長村 義之, 佐々木 寛, 土屋 眞一

（総務委員会委員）山下 博

（総務委員会幹事）星 利良, 和田 直樹

（制度審議委員会幹事）佐々木 陽介

（中田会計士事務所）中田 ちず子

本理事会の開催にあたり、佐藤之俊 理事長の開会挨拶が行われた。

副理事長挨拶（川本 雅司、齋藤 豪、中村 直哉）

川本雅司 理事から事務局運営・編集・渉外について、齋藤豪 理事から総括・財務・専門医・臨床研究について、中村直哉 理事から認定試験・検査士・教育について、それぞれ状況報告が行われた。川本雅司 理事からは評議員選挙が始まる旨の報告も行われた。

前回議事録について

2019年度第3回理事会議事録の確認が行われた。

庶務報告

総務庶務報告（2020年3月4日現在）

全会員数：12,718名

（正会員 5,657名, 準会員 6,831名, 名誉会員 40名, 功労会員 174名, 図書会員 16件）

細胞診専門医および細胞診専門歯科医数：3,070名（実数）

（認定：細胞診専門医 3,706名、細胞診専門歯科医 102名）

FIAC：110名 MIAC：38名

細胞検査士数：7,814名（実数）（認定10,335名）

CT(IAC)：4,247名

物故会員（2020年1月23日～2020年3月4日）

功労会員 岡田慶夫（おかだよしお）殿

正会員 今西克彦（いまにしかつひこ）殿

坂口伸樹（さかぐちのぶき）殿（中信松本病院 呼吸器内科）

谷岡慶英（たにおかよしひで）殿（谷岡産科・婦人科）

準会員 奥山隆三（おくやまたかぞう）殿（(株)ファルコバイオシステムズ京都 病理細胞診

センター)

松岡壮 (まつおかつよし) 殿 (ファルコバイオシステムズ岡山研究所 病理検査)

山田仁彦 (やまだきみひこ) 殿 (静岡済生会総合病院 病理診断科)

黙禱

学会年会費滞納者一覧の報告

滞納者一覧の報告後、対象者に年会費滞納者である旨の声掛けを行って、滞納を解消することが奨励された。

大会準備状況

第61回春期大会 (佐藤之俊、パシフィコ横浜、2020年6月5日 (金) ~7日 (日))、第59回秋期大会 (伊藤仁、パシフィコ横浜、2020年11月21日 (土) ~22日 (日))、第62回春期大会 (生水真紀夫、幕張メッセ、2021年6月4日 (金) ~6日 (日))、第60回秋期大会 (廣岡保明、米子コンベンションセンター BIG SHIP、2021年11月20日 (土) ~21日 (日))、第63回春期大会 (岡本愛光、グランドプリンスホテル高輪、2022年6月10日 (金) ~12日 (日))、第61回秋期大会 (伊藤潔、仙台サンプラザホテル・ホールメルパルク仙台および周辺施設、2022年11月5日 (土) ~6日 (日)) の準備状況に関する報告が行われた。

次の第 61 回春期大会は、新型コロナウイルスがパンデミックになっている状況なので、social program を原則中止とし、可能な人には直接会場まで参加して頂き、会場に参加できない方には WEB 参加 (WEB 配信を活用) するというハイブリッド形式で大会を開催する検討を行う。専門医機構の単位は直接会場まで参加のうえ取得して頂く必要があるが、それ以外の単位は web 配信で取得して頂けるように検討する予定である。web 配信業務については、本学会 e ラーニングサイト運営担当の OpenCEAS 株式会社に依頼する方向で調整を始めることが合意された。なお、学術集会は開催の予定で進めているが、政府から緊急事態宣言が発令された場合は中止も検討する。

総務委員会 (委員長 森井 英一)

[事業計画]

学会内、他学会、他団体との調整を行い、円滑に学会運営が行われるようにする。

[報告事項]

1. 他団体からの周知依頼に対応した。
2. クラウドフォルダーについて使い易いものへの変更を準備している。

[審議事項]

1. ワーキンググループの報告書について→ワーキンググループでも報告書を作成することを可決した。
2. 議事録作製について→従来通りとすることを可決した。

情報処理委員会 (委員長 伊藤 仁)

[事業計画]

1. 学会ホームページの改善
2. HP のマイページの刷新と業者の変更について

[報告事項]

事業計画 2. HP のマイページの刷新と業者の変更について、秋期大会理事会にて情報処理委員会で

審議のうえ実施の可否について判断すると、理事会決定に従い、情報処理委員会メール会議で審議した（令和1年11月26日～12月2日）。特に反対意見はなかったが、懸念される点および確認事項について報告した。それに対する回答が事務局からあった。具体的には以下の通りである。

a. 移行後は事務局が管理をすべて引き受けることになっているが、安全で安定した運用見通しが立てられているのか？専門的な知識を要する管理方法であるなら、やはり専門業者に頼らざるを得ないのではないか（事務局で対応可能であれば異論なし）？

回答：ワープロ入力のようにデータ更新ができ、事務局負担は大幅に軽減。

b. 個人情報に関して、漏洩などの管理・責任体制はどうなのか？それらを安全に運用する仕組みはできているのか？

回答：個人情報の管理とシステムの運用はすべて業者の責任で運用され、会員の住所など個人情報に関する項目は会員が直接業者のサーバーに書き込むので、これについての細胞学会の責任は発生しない。事務局が更新する情報は数字の羅列となり、これ自体が個人情報には該当しない。

c. 現状に比し事務局の業務量が増すと思われるが、本来の事務業務への影響はないのか？

回答：マイページの導入により事務局業務は大幅に増大しているが、その主たる理由はマイスワンの機能の不備と対応の悪さが原因。

d. オールインワンで長期間管理して頂ける他の業者あるいはシステムを考慮しても良いのではないのか？

回答：マイスワンのシステムが「クローズドショップ」と言われる旧式なシステムですべての作業がマイスワンを介さなければならない方式のために、細胞学会のようなデータの鮮度が要求される業務には不向きである。新たな業者は中核の部分は業者の管理で、枝葉の部分を自由にアレンジできる「オープンシステム」のために即応性に優れる。

〔審議事項〕

HPのマイページの刷新と業者の変更について→可決

学術委員会（委員長 前田 一郎）

〔事業計画〕

1. 2020年 学会賞・技師賞・班研究課題、最優秀論文賞、トラベルグラントの募集及び選考を行う。
2. 学術集会あり方検討ワーキンググループの決定事項に従って、学術集会に対する助言を行う。
3. 2020年特別学術研究の作成

〔報告事項〕

1. 2019年度特別学術研究費：
(ア) 田中良太先生（杏林大学医学部呼吸器外科・准教授）
(イ) 研究課題：ゲノム時代における呼吸器科液状化検体の細胞を用いたクリニカルシーケンスに関する多施設共同研究
2. 2019年度 特別学術補助金
(ア) 雨宮健司先生（山梨県立中央病院検査部/ゲノム解析センター 主任臨床検査技師）
(イ) 研究課題：Archived cytological specimen を用いた NGS 解析の有用性の検討

3. 班研究費

(ア)大崎博之先生(神戸大学大学院保健学研究科・准教授)

(イ)研究課題:尿中ポドサイトによる糸球体腎炎の各種判定基準の確立ー尿細胞診の新たなフロンティアの開拓ー

4. 2019 年度学会賞

下記, 審議事項 1

5. 技師賞(学術部門)

(ア)木下勇一先生(和歌山県立医科大学附属病院中央検査部病理診断部門・臨床検査技師)

6. 2019 年度技師賞(功労部門)

(ア)田路英作先生(公益財団法人大阪府保健医療財団 大阪がん循環器病予防センター臨床検査室・室長)

7. 2019 年度特別学術研究費 2

松浦基樹先生(札幌医科大学産婦人科・講師)

研究課題:自己採取法による HPV 検査の子宮頸がん検診の未受診者対策としての有効性評価

[審議事項]

1. 2019 年度 学会賞

→中村直哉先生(東海大学医学部基盤診療学系病理学・教授)に決定

2. 2020 年特別学術研究の作成および学術委員会による公募内容作成→以下の内容で可決

研究期間:2 年間

多施設共同研究であること

研究修了後, 成果物を学会に提出することを義務化すること

3. トラベルグラント

→総額 200 万円(欧州学会 20 万円, アジア学会 10 万円を基本とする)で可決

4. 秋期大会時委員会開催可能への内規改定について→継続審議

a. 秋期大会は, 開催年度の 10 月から 12 月の連続する 2 日間とする。

b. 原則として学術プログラムと各種委員会・理事会を同時進行としない。

以上 a, b を基本方針として秋期大会時の委員会開催について継続審議となった。ポイントは委員会を活発に行うことと、秋期大会中に学術プログラムを委員会で圧迫しないようにすることであり、これらのバランスがとれた方針にする必要がある。

計理委員会(委員長 岡本 愛光)

[事業計画]

1. 学会の経理について、正しく運営されるよう確認を行う。

2. 決算案、予算案の作成を行い、春・秋と 2 回の監査会を行い会員に報告をする。

3. 報酬等の支給及び支出基準の更新および経理基準を作成していく。

[報告事項]

1. 2020 年度の予算案を作成した。

2. 2020 年 4 月 9 日に監査会を行う予定である。

[審議事項]

1. 2020 年度予算案→承認
2. 2020 年度「資金調達及び設備費用の見込み」→承認
3. 特定費用準備資金について→公益法人化 10 周年（2023 年）記念事業に予算が必要となることや新型コロナウイルスの影響で学会収入が減収する懸念があることに對し、特定費用準備資金として資金を積み立てる方針を可決した。

編集委員会（委員長 矢納 研二）

〔事業計画〕

1. 年間 6 回の電子ジャーナルの刊行、依頼稿年間 6 本を予定。
2. 春期大会、秋期大会前日に 2 回、それ以外に 4 回の編集委員会を開催予定。
3. 投稿規定の見直し、作業の効率化を計画。

〔報告事項〕

2019 年度中に、計 3 回の編集委員会を開催した（そのうち 1 回は、第 58 回日本臨床細胞学会秋期大会開催期間中に開催）。

〔審議事項〕

1. 現行の投稿規定で規定されている「邦文論文の英文校正料は半額免除」を、「邦文論文の英文校正料は全額免除」に修正したい。→可決
2. 2020 年 4 月 1 日にカナダに転勤される幹事大沼利通先生の代わりとして、新たに以下の 2 名の幹事を充てたい。→可決
 - ① 東邦大学医学部産婦人科 谷口 智子先生
 - ② 久留米大学医学部付属病院 病理診断科・病理部 安倍 秀幸先生

細胞診専門医委員会（委員長 植田 政嗣）

〔事業計画〕

1. 2019 年度教育研修指導医新規申請および資格更新
2. 2020 年度細胞診専門医資格更新
3. 2020 年度細胞診専門医資格認定試験

〔報告事項〕

1. 2019 年 11 月 30 日（土）細胞診専門医資格認定試験実施
総合科 138 名、歯科 5 名が受験した。総合科については、全体では合格者数 118 名（合格率 84%）、病理科合格者数 95 名（合格率 91%）、婦人科合格者数 21 名（合格率 66%）であった。歯科については 5 名中 4 名（80%）が合格した。
2. 細胞診専門医教育研修指導要綱改訂 WG 設置
細胞診専門医教育研修指導要綱を改定するための WG を、理事長諮問委員会として安田政実委員長の下に新たに設置することを通信理事会に申請した。2019 年 12 月 21 日（土）に第 1 回会議が開催され、メンバー、業務分担、今後の方向性、スケジュール等が話し合われた。
3. e ラーニングについて
e ラーニングシステムを構築し 2019 年 2 月より運用を開始した。現在までに共通講習 18 コンテンツ（含 指導医講習 3 コンテンツ）、領域講習 22 コンテンツをアップした。2020 年 2 月 19 日までの累積閲覧数は 2022（ビュー）、単位販売数は 157（単位）× 4,000 円 = 628,000 円（税抜き）

である。

4. 2020年細胞診専門医資格認定試験実施委員長を山下博先生とする。また、副委員長の任命は委員長へ一任する。

〔審議事項〕

1. 細胞診専門医資格更新施行細則一部改訂について→以下の事柄を明記する改訂で可決
 - ・必修項目（医療安全・感染対策・医療倫理）については、日本専門医機構単位認定の共通講習並びに本法人会員用 e ラーニング受講歴も単位として認める。
 - ・春期大会細胞診専門医会 1 単位（本法人会員用 e ラーニング受講歴も単位として認める）
 - ・秋期大会細胞診専門医セミナー（教育研修指導医講習会を兼ねる）1 単位（本法人会員用 e ラーニング受講歴も単位として認める）
 - ・細胞診専門医委員会単位認定研修会（要申請）並びに本法人会員用 e ラーニング受講歴も単位として認める。
2. e ラーニングサイト委託金について
次の第 61 回春期大会運営事務局が学会 web 参加・web 配信を OpenCEAS 株式会社（e ラーニング講座運営に関して本学会と業務委託契約を締結している会社）へ委託することについて話し合う方針を可決した。これにより OpenCEAS 株式会社の委託金が増えることが期待される。なお、学会 web 参加・web 配信、e ラーニングシステムの恒常化やこれらをどう活性化していくかについては継続審議事項となった。

施設認定制度委員会（委員長 廣岡 保明）

〔事業計画〕

1. 新規施設認定審査（施設認定、教育研修施設認定）（2020年4月30日 締切）
2. 認定施設更新審査（認定施設、認定教育研修施設）（2020年3月31日 締切）
3. 年報提出依頼とその集計解析（認定施設、教育研修施設）（2020年3月31日 締切）
4. 内部精度管理（実地調査 4カ所）：内部精度管理WGのもとで2020年7～9月頃実施予定
5. 外部精度管理（全認定施設でコントロールサーベイ）：外部精度管理WGのもとで、2020年10～12月頃に実施予定（2年毎に実施）
6. 年報会議2回、内部精度管理WG、外部精度管理WGを行う

〔報告事項〕

1. 過去の認定施設更新が未完了の27施設に最終通知を郵送済み（2020年2月10日 締切）
2. 過去の教育研修施設更新が未完了の24施設に最終通知を郵送済み（2020年1月27日 締切）
3. 2019年度 内部精度管理WGによる実地調査を行った
4. 以下の検討事項を現在施設認定制度委員会で審議中である。審議を終えたら理事会に諮る。
 - ・施設認定に関する施行細則の整理について
 - ・施設認定に関する施行細則・附則と精度管理ガイドラインの整理について
 - ・施設認定に関する申請料について

〔審議事項〕

特になし。

細胞検査士委員会（委員長 加藤 久盛）

〔事業計画〕

1. 2020年度(第53回)細胞検査士資格認定試験
一次試験は2020年10月31日(土)にCIVI研修センター新大阪東において実施する予定。
二次試験は2020年12月5日(土)・6日(日)に東京富士大学において実施する予定。
2. 2019年CT(IAC)資格認定試験 今年試験無し
3. 細胞検査士資格更新のためのe-learningの運用開始

〔報告事項〕

1. 2019年度(第53回)細胞検査士資格認定試験
一次試験で選抜された319名および一次試験免除志願者164名の計483名のうち、4名欠席を除く479名が受験した。合格基準点を70.0とし、236名(49.3%)が合格、不合格者247名で、来年度一次試験免除者は168名となる。
2019年12月12日HPにて結果発表、12月18日試験結果を封書にて発送済。

〔審議事項〕

特になし。

細胞検査士資格更新審査委員会(委員長 羽場 礼次 代理 森井 英一)

〔事業計画〕

1. 2020年度 細胞検査士資格更新対象者なし

〔報告事項〕

2019年細胞検査士資格更新審査結果のまとめ(2020年2月11日(火・祝)実施)

審査結果は、

更新可1553名(94.8%)

条件付更新可7名(0.4%)

地域連携組織への所属要確認・カード等不備有で更新未完了11名(0.7%)

保留更新3名(0.2%)

未申請29名(1.8%)

更新辞退16名(1.0%)

退会済・退会申請中18名(1.1%)

上記の内、カード等不備有で更新未完了の11名には不備及び書類の追加提出について連絡済みで、訂正を確認後、更新可または条件付更新可とする。

また、地域連携組織への所属が確認出来なかった方については、再度地域連携組織へ所属の確認を行い、訂正を確認後、更新可または条件付更新可とする。

未申請の29名へはレターパックプラスにて最終意思確認をし、期限(2020年3月9日(月)必着)までに応答の無い者は資格失効とする。

〔審議事項〕

特になし。

教育委員会(委員長 生水 真紀夫)

〔事業計画〕

1. 細胞診断学セミナーおよび細胞検査士教育セミナー・細胞検査士ワークショップ・細胞検査士

養成講習会を企画・実施する。

2. 細胞診断学セミナー実施委員会を設置して、細胞診断学セミナーの改善・管理を行う。
3. 日本肺癌学会肺がん検診委員会と共同で「喀痰細胞診標準細胞表本の管理・貸し出し業務を行う。

〔報告事項〕

a. 喀痰細胞診標準細胞表本の貸し出しシステムの変更

臨床細胞学会と肺癌学会の「喀痰細胞診に関する肺癌学会と細胞学会の合同WG」の解消に伴い、「喀痰レクチャースライド（約200枚）」を全国に貸し出すための管理システムの変更が必要となった。日本肺癌学会（肺がん検診委員会：佐川元保委員長）との協議の結果、標本管理者を「合同委員会委員長」から、「臨床細胞学会の教育委員長」と「肺癌学会の肺がん検診委員長」との連名に変更して、貸し出し許可等の事務的手続きを続行することとなった。実際標本管理および手続き業務は、引き続き宮城県対がん協会に委託する。委託に当たっては、「保管中・輸送中の破損等に関して、宮城県対がん協会の責任は問わない」ことを条件とし、無償で引き受けていただくこととなった。

b. 細胞診セミナー

大阪会場での開催にむけて準備を進めている。例年の東京開催に比べ、会場費の増額の他、教育委員会委員等の交通費、宿泊費用が本年度に限り新に発生する見込みである。

c. 2月29日（土）、3月1日（日）第79回細胞検査士ワークショップ（藤田医科大学）

新型コロナウイルス感染リスクへの配慮から、実施を中止した。

d. 喀痰細胞診標準細胞表本の貸し出しシステムの変更にもなう内規変更

上記変更にもない、1) 臨床細胞学会教育委員会委員長と肺癌学会肺がん健診委員会委員長とが連名で、新たに標本管理責任者となること、2) 従来の「標本管理者」の名称を、業務委託先で実際の標本管理業務の責任者に用いる名称に変更し、標本管理責任者がこれを任命することとなった。これらの変更点を入れた内規と貸し出し申請書を作成した。

〔審議事項〕

各種セミナー等の延期・中止の可能性について

→単位取得などについて決して直接会場まで参加することを強制するスタイルにはしないが、可能な方には直接会場まで参加して頂くスタイルで粛々と各種セミナー等を行う方針を確認した。ただし、日本政府の新型コロナウイルス対策に合わせて臨機応変に対応していく方針とする。

渉外・広報委員会（委員長 小田 瑞恵）

〔事業計画〕

1. 雑誌発行時に目次を添えて会員へ広報を行う。（一斉メール）
2. 他学会との会議に参加し、情報を収集・共有することによって、本学会との連携を更にレベルアップする。
3. 広報事業として、学会の存在を更に周知させるために諸団体が開催する公開講座や関連学会を積極的に後援していく。

〔報告事項〕

1. 会員へのメール配信について

日本臨床細胞学会誌をホームページへアップした際、全会員へ目次等まとめたものを一斉メー

ルした。

2. 他学会等からの共催・協賛・後援に関する申請について

① 独立行政法人環境再生保全機構より「第 19 回中皮腫細胞診実習研修会」の後援依頼→承認した。

3. 他学会等との会議出席等について

① 一般財団法人 医療関連サービス振興会 サービスマーク認定に係る審査調査指導中央委員会（令和元年度第 3 回）に出席した。

② 一般財団法人 医療関連サービス振興会 衛生検査所専門部会に出席した（（令和元年度第 3 回：岡 俊郎委員）。

一般財団法人 医療関連サービス振興会 「医療法改正に伴うチェックリスト改定ワーキンググループ」に出席した（第 2 回 第 3 回）。なお、チェックリストの調査内容にある「細胞検査士の一日の鏡検枚数は平均で何枚か *ただし集細胞法で作製した標本は 1/2 で換算」の記載について、「*ただし集細胞法で作製した標本は 1/2 で換算」とあるが、細胞学会でこのような換算をしたことはないため、その旨を伝え改定を希望することを申し入れる。

〔審議事項〕

特になし。

社会保険委員会（委員長 若狭 朋子）

〔事業計画〕

1. 2022 年診療報酬改正に向け、要望書を作成するとともに、内保連、厚労省などと交渉を進め、あるいは対外的に活動していく。

〔報告事項〕

1 月 9 日 第 3 回診療報酬調査専門組織・医療技術評価分科会が開催された。

3 月 5 日 厚労省より令和 2 年度診療報酬改定の内容が告示

主な変更点：

1. セルブロックの適応拡大（肺がん、胃癌、大腸癌、卵巣癌若しくは悪性リンパ腫を疑う患者）→適応に原発不明癌を入れたほうが良いという意見が本理事会で出た。前向きに検討予定。

2. ROSE の適応拡大（膵癌又は胃粘膜下腫瘍が疑われる患者に対して超音波内視鏡下穿刺吸引生検法の実施時）

3. 免疫染色 4 種抗体加算の適応拡大（原発不明癌、原発性脳腫瘍）

4. 免疫染色の 4 種加算が 1600 点から 1200 点へ減点（-400 点）

5. ヘルペスウイルス感染症における Tzanck 細胞の標本作製は細胞診により算定

6. 病理診断管理加算 1 に関する施設基準のうち、病理診断を専ら担当する常勤の医師の経験年数を 5 年以上に短縮

7. 病理診断管理加算 2 に関する施設基準のうち、病理診断を専ら担当する常勤の医師の経験年数を 5 年以上 1 名、7 年以上 1 名に短縮

〔審議事項〕

特になし。

地域連絡委員会（委員長 伊藤 潔）

〔事業計画〕

1. 2018年度地域学会・連合会活動報告の回収および集計を行う。(締切:2020年3月30日(月))
2. 子宮頸がん検診推進活動支援について地域学会を通して行うための申請・審査を進める。

〔報告事項〕

1. 2018年度都道府県地域連携組織・連合地域連携組織活動報告について：
報告書提出の案内を2020年1月より開始。
2. 子宮頸がん検診推進活動支援について：
 - 1) 2019年度の活動支援の申請件数 46件
実施内容報告書を提出した地域学会（2019年7月時点で 44件）に支援し、
助成金の交付は上限5万円、残り2件は、報告書の提出待ち
 - 2) 2020年度の子宮頸がん検診推進活動支援は、支援費用については5万円を上限とし、希望地域は2020年3月末日までに企画書の提出を依頼する。
3. 細胞診に関する公益事業（公開講座等）の募集について
4月に公募開始し、7月末に締め切り、4件の応募があり、いずれも採用と判断。
11月末まで追加募集を行い、2件の応募があり、いずれも採用と判断。
ただし1件は、その後、次年度に延期となった。

〔審議事項〕

特になし。

国際交流委員会（委員長 榎本 隆之）

〔事業計画〕

1. 春期、秋期大会時におけるグローバルアジアフォーラムの支援
第61回日本臨床細胞学会総会春期大会；2020年6月5日（金）～7日（日）；パシフィコ横浜
韓国・中国・タイ・カンボジア・オーストラリア・日本より各1名の演者
2. 日-韓、日-タイ、日-中 合同カンファレンス（合同会議）のサポート
第19回日韓細胞診合同会議；2020年9月5日（土） 韓国（予定）
第28回日-タイ細胞診ワークショップ；2021年1月20日（水）～22日（金）チェンマイ
（中国は、2020年6月春期大会アジアフォーラムへの演者を招聘予定）
3. IAC, ECC のサポート
Companion Meeting Japan in ECC 2020；2020年10月4日（日）～7日（水）ポーランド
4. オーストラリアとの交流
2020年6月春期大会アジアフォーラムへの演者を招聘予定
5. カンボジアとの交流サポート
2名分のトラベルグラントを計上、2020年6月春期大会にも2名を招請予定
6. 国際交流に関わる海外情報の収集および本学会からの発信
7. JHU-ASC-JSCC 合同ワークショップ2020の企画、運営

〔報告事項〕

1. JHU-ASC-JSCC 合同ワークショップ2019の実施
2019年12月14日（土）～15日（日）；慶應大学

参加者；90名

今回のセミナーについて、92%の参加者（57/62）が「とても良い」または「良い」と回答された。一方で、会場の環境（温度や椅子の硬さ）、同時通訳の希望、昼食の手配などについての意見があった

2. 第28回日-タイ細胞診ワークショップの実施

2020年1月15日(水)～17日(金)；タイ・パタヤ

日本側からの参加者；21名

〔検討事項〕

JHU-ASC-JSCC 合同ワークショップ 2020 の実施について→実施することを可決

制度審議委員会（委員長 宮城悦子）

〔事業計画〕

1. 成熟した社会に則した本法人のあり方を常に考え、学会内外から広く意見、提案を聴き、必要な制度改革を提案するとともに、本法人内においては各委員会等からの制度に関するコンサルテーションを受け、必要な提案を行う。

2. 理事会、総会承認に基づく定款、細則改定の実施。

〔報告事項〕

1. 下記承認案件（2019年11月26日）を細則集・内規集に反映させた（2020年2月10日）

① 細胞診専門医資格認定試験施行細則

② 細胞診専門医資格認定試験実施に関する施行細則

③ 細胞検査士資格更新実務に関する施行細則

④ IAC 連絡委員会に関する施行細則

⑤ 各種委員会構成を決定する際の申し合わせ事項

⑥ 所在等不明な名誉会員と功労会員に対する通信業務及び事務手続き中止に関する内規

⑦ 細胞検査士資格更新に関する e-learning の運用

⑧ 上記 Web 配信同意書

2. 下記審議事項検討項目①～③について委員会内メール審議を①に関し2020年2月11日～21日、

②～③に関し2020年2月18日～21日にかけて行い、特段の異議なく議事録を作成した。

〔審議事項〕

①JSCC 事務局職員就業規則関連・要項等保管文書（案）0314

事務局職員就業規則 改定対照表（案）0314

→本件は2019年11月26日に一度承認されたが、事務局より再度変更の依頼あり、再度検討事項とした。→改めて承認

②委員会に関する施行細則 改定対照表

→IAC 委員会の理事長直属への変更について→承認

③旅費に関する施行細則 改定対照表

→役員（理事長、副理事長、理事、監事、各委員長）、非役員（それ以外）の交通費・宿泊費変更→承認

④その他

●秋期大会時委員会開催への内規改定→学術委員会・学術集会のあり方検討ワーキンググループからの原稿待ち（委員会発議前）→学術委員会・学術集会のあり方検討ワーキンググループと継続審議

●研究による知財の扱いについて→学術委員会より、現行、知財に関する規定がないため新規文章作成原稿待ち（委員会発議前）

→骨子は、臨床細胞学会名で特許登録はしない、被助成者がご本人名で特許を登録した場合において、特許使用許諾料が入ったときは、特許使用許諾料が臨床細胞学会に分配されることがないこと。
→学術委員会と継続審議

医療安全委員会（委員長 藤井 多久磨 代理 森井 英一）

〔事業計画〕

1. MSC ホットラインの事例が発生した場合の体制を整えておく（鑑定人およびそれに関する臨時の全域）
2. 第 61 回日本臨床細胞学会春期大会において、2020 年 6 月 6 日（土曜）15 時 10 分より、医療安全セミナーを近江八幡市立総合医療センター 病理診断部長の細川洋平先生が（演題名未確定）で開催予定である。

〔報告事項・審議事項〕

特になし。

倫理委員会（委員長 竹島 信宏）

〔事業計画〕

1. 第 61 回日本臨床細胞学会春期大会の倫理セミナーにおいて、査読盗用事例について報告する（10 分程度）。
2. 日本臨床細胞学会の学会発表において、事前の倫理審査を義務付けるかを検討する（まずは倫理委員会内で検討する）。

〔報告事項〕

査読盗用事例について

昨年より協議してきた査読盗用事例については、2019 年 12 月 27 日（金）9：30 より日本臨床細胞学会事務局地下 2 階会議室にて、該当者に文書で注意を行った。理事長と倫理委員長が同席した。嚴重注意するとともに、評議員の資格を 1 期停止し、日本臨床細胞学会誌の査読を 1 期停止することを通告した。該当者より異議申立書の提出はない。

また、理事長より該当者の所属長に対して注意を行った。

〔審議事項〕

特になし。

利益相反委員会（委員長 板持 広明）

〔事業計画〕

1. 役員および発表者（非会員含む）の事業活動に係わる COI 状態の判断ならびに助言、指導。
2. 会員個人の COI 申告に関する疑惑が生じた時の調査活動、関係する施設・機関との情報交換、改善措置の勧告に関すること。

3. 2019年利益相反自己申告書の提出依頼をする。

〔報告事項〕

特になし

〔審議事項〕

倫理委員会（外部委員）の小谷昌子委員から「利益相反自己申告書（様式3）」が提出されていない件について。→小谷昌子氏に倫理委員会（外部委員）から外れてもらうことを可決。

臨床試験審査委員会（委員長 田畑 務 代理 森井 英一）

〔事業計画〕

1. 臨床試験審査委員会を1回、春期大会で行う。
2. 臨床試験が提出された場合には、随時、審査を行う。

〔報告事項・審議事項〕

特になし。

IAC連絡委員会（委員長 青木 大輔）

〔事業計画〕

1. IACからの諸情報等について検討し対応する
2. 試験実施費用〔支出〕が収入を超過しているサイトパソロジスト試験のあり方について検討。

〔報告事項〕

第21回国際細胞学会 ICC2022 が第70回米国細胞病理学会との併催で2022年11月14日から19日まで米国メリーランド州ボルチモアにて開催される。the 70th Annual Scientific Meeting of the American Society of Cytopathology と同時開催

〔審議事項〕

特になし。

臨床試験ワーキンググループ（委員長 進 伸幸）

〔事業計画〕

・『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診とHPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究（CITRUS study）』（山梨県、千葉県柏市）の継続

〔報告事項〕

『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診とHPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究（CITRUS study）』の進捗状況

- ・最終登録症例数は18,471例であり、2015年4月以後は登録症例について検診/精密検査実施医療機関と協力して7年間の追跡調査を実施している。
- ・本研究の初回検診の結果までに関するベースライン論文を、Cancer Epidemiology 誌に報告した(Cancer Epidemiol. 2017;50:60-67)。
- ・本研究は特定臨床研究に該当するため、認定臨床研究審査委員会（慶應義塾臨床研究審査委員会）への申請を行い2019年2月8日に認可を受けた。認可後に関東信越厚生局へ実施計画を提出し、jRCTへの登録（臨床研究実施計画番号：jRCTs031180313 公表日：2019年

3月15日)を完了した。

・本研究は特定臨床研究として中央モニタリングを行う必要がある。モニタリング担当部門を神戸医療産業都市推進機構医療イノベーション推進センターモニタリング部に担っていたが、2020年1月に第1回中央モニタリングを実施した。

・監査について

本研究では、特定臨床研究への移行に伴い定期的な監査を行うことが必要である。

日本臨床細胞学会の臨床試験ワーキンググループの中に監査委員会を設置し、この監査委員会のリーダー(CITRUS スタディ監査チームリーダー)に国立病院機構 東京医療センターの山下 博先生に就任していただき、3/9に山梨県のクリニックにて、また3/13本学会事務局にて監査が施行され特に問題を認めなかった。

『子宮頸癌疑い患者及び検診受診者を対象としたLC-1000の有用性に関する臨床試験』

・解析完了と論文報告

本試験は2017年9月に解析が完了しており、その結果は、Acta Cytologicaに投稿しaccept (Acta Cytologica 2019;63:391-400)された。

A clinical trial to verify the efficiency of the LC-1000 exfoliative cell analyzer as a new method of cervical cancer screening

Nakamura M, Ueda M, Iwata T, Kiguchi K, Mikami Y, Kakuma T, Aoki D.

※本理事会の後で理事長、執行部の先生方とCITRUS スタディの現状と2020年度の研究継続計画について報告する予定である。

〔審議事項〕

特になし。

ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループ (委員長 森井 英一)

〔事業計画〕

1. 細胞診、特にセルブロック検体の作成方法の違いによる核酸の品質検討を行う。
2. ゲノム診療時代において、細胞診はDNA/RNAの重要なソースであるが、その品質保証についての実証実験はされていない。本ワーキングでは様々な状況における細胞診検体におけるDNA/RNA品質を検証する。

〔報告事項〕

1. 会議を行い(2019年12月20日、2020年1月30日)、実証実験の計画を立て、実行状況について確認した。
2. 事業費について北海道大学に入金手続きを進めている。
3. 多施設共同研究の倫理審査について、北海道大学を主施設として申請中。国立がん研究センターについては別途検討中。

〔審議事項〕

特になし。

ゲノム時代における呼吸器細胞診検体処理の精度管理ワーキンググループ (委員長 佐藤 之俊)

〔事業計画〕

ゲノム時代における呼吸器科液状化検体の細胞を用いたクリニカルシーケンスに関する多施設

共同研究を推進する。

〔報告事項〕

1. 作業のロードマップを作成した。
2. ワーキンググループの計画に対する研究費が支給された。

〔審議事項〕

特になし。

肺癌細胞診の診断判定基準の見直しワーキンググループ（委員長 佐藤 之俊）

〔事業計画〕

1. 新たな判定基準に基づいたレビューの結果を国際雑誌に発表する事業の継続。
2. IAC と協力し新たな肺癌細胞診判定基準を提唱の検証。その内容を日本臨床細胞学会、日本肺癌学会、ECC2020 等にて発表する。

〔報告事項〕

1. 本 WG において新たな 4 段階の判定基準を提案し、それに基づく診断の検討を Acta Cytologica に投稿し revise ののち accept された。
2. 国際的な Steering Committee を組織し、国際基準作成作業を進めている。

〔審議事項〕

特になし。

IAC Yokohama System 乳腺細胞診ワーキンググループ（委員長 森谷 卓也 代理 長村 義之）

〔事業計画〕

1. 会議開催（年 2 回開催予定）。
2. 多施設で後ろ向き研究を実施。報告様式の検証と ROM(risk of malignancy)算出を目指す。必要に応じ、症例についての見直しも行う。
3. 日本臨床細胞学会・日本乳癌学会・日本病理学会などで発表（公聴会）。
4. 結果を論文発表。

〔報告事項〕

1. 第 1 回会議（2020/2/8）を開催。委員長：森谷卓也、副委員長：前田一郎、西村理恵子に決定した。
2. 川崎医科大学を主施設として多施設共同研究を行う。
3. 名古屋医療センターで既に使用している簡易翻訳版を研究に活用する。
4. 次回会議は 2020 年 6 月 20 日（土）を予定。

〔審議事項〕

特になし。

細胞診専門医教育研修指導要綱改定ワーキンググループ（委員長 安田 政実 代理 山下 博）

〔事業計画〕

2020 年 3 月末までに原案を策定。

2020 年 6 月の春期大会中に全体会議を開催する。

2020 年 11 月の理事会において承認を得て、2021 年度細胞診専門医資格認定試験より適用する予

定。

〔報告事項〕

2019年12月21日に第一回会議を開催。10名のメンバーおよび担当分野を決定した。

〔審議事項〕

特になし。

その他の審議事項

(ア)．2020年度予算案

→計理委員会〔審議事項〕1, 2参照。2020年度予算案を承認し、特定費用準備資金を積み立てる方針を可決した。

(イ)．2020年度事業計画案→以下を承認した。

2020年度公益社団法人日本臨床細胞学会事業計画（案）

1. 臨床細胞学に関する学術研究の推進並びに学術集会の開催

① 学術集会等を通じた研究・教育の普及および広報

1) 第61回（2020年）春期大会 佐藤之俊大会長

会期：2020年6月5日（金）～7日（日）

会場：パシフィコ横浜

2) 第59回（2020年）秋期大会 伊藤仁大会長

会期：2020年11月21日（土）～22日（日）

会場：パシフィコ横浜ノース

② 研究活動への助成による学術研究

班研究課題・特別学術研究費の選考を公募によって実施する。

③ 学会研究活動

「一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診とHPV DNA検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究」について継続して研究を行う。

※青木 理事が現在実施中の臨床研究などを1. ③に加えることを提案し、承認された。

④ 学会賞・技師賞・最優秀論文賞の授与およびその論文発表

学会賞・技師賞および最優秀論文賞（和文・英文）選考を公募によって実施する。

2. 臨床細胞学に関する教育普及事業

① 講習会およびセミナーの開催

講習会	開催日	開催地・実施委員長
第129回細胞検査士養成講習会	2020年6月29日（月） ～7月11日（土）	東京医学技術専門学校 伊藤 仁
第45回細胞診断学セミナー	2020年8月6日（木） ～9日（日）	CIVI 新大阪研修センター 教育委員長
第79回細胞検査士教育セミナー	2020年8月22日（土） ～23日（日）	パシフィコ横浜メインホール 阿部 仁
第80回細胞検査士教育セミナー	2020年9月5日（土） ～6日（日）	松下IMPホール 田路 英作

第 80 回細胞検査士ワーク ショップ	2020年7月18日(土) ～19日(日)	秋田大学医学部 第2講義室 阿部 一之助
第 81 回細胞検査士ワーク ショップ	現在打診中	

3. 臨床細胞学に関する渉外・広報事業

- ① 診療報酬改定に係る活動。
- ② 子宮の日：都道府県にて子宮頸がん検診推進活動を行う。
- ③ HPを通じての広報活動。
- ④ 関連他団体との連携。

4. 臨床細胞学に関する細胞診専門医並びに細胞検査士の資格認定、更新に関する事業

- ① 細胞診専門医、細胞検査士の資格認定および資格更新
 - 1) 2020年度細胞診専門医資格認定試験
2020年12月19日(土)に「AP浜松町」で施行予定。
 - 2) 2020年度細胞診専門医資格更新は、
684～773、1102～1170、1387～1446、1647～1710、2029～2159、2477～2577、2850～
2961、3223～3325、8041～8045
 - 3) 2020年度(第53回)細胞検査士資格認定試験
一次試験は2020年10月31日(土)にCIVI研修センター新大阪東で実施予定。
二次試験は2020年12月5日(土)・6日(日)に東京富士大学で実施予定。
- ② 2020年度細胞検査士資格更新
2020年度細胞検査士資格更新対象者は、なし。
- ③ 教育研修指導医の資格認定および資格更新
 - 1) 2020年度教育研修指導医の認定
2020年2月～3月に新規募集し、審査会を経て認定証を発行する。
 - 2) 2020年度教育研修指導医の更新は、なし。

5. 細胞診断の質を維持、向上させるための施設認定、研修に関する事業

- ① 細胞診を用いた検診等を実施する団体等への施設認定および細胞診専門医を育成するための教育研修施設認定
 - 1) 2020年度新規施設認定：学会ホームページに2020年2月末～3月上旬に掲載。
申請書締切2020年4月30日。審査終了2020年5月頃。理事会報告、当該施設への
認定報告、学会雑誌イエローページに掲載。
 - 2) 2020年度教育研修施設認定：学会ホームページに2020年2月末～3月上旬に掲載。
申請書締切2020年4月30日。審査終了2020年5月頃。理事会報告、当該施設への
認定報告、学会雑誌イエローページに掲載。
 - 3) 2020年度認定施設の更新
2020年度認定施設の更新ナンバーは、
0711-0749、0842-0854、0896-0907、0938-0944
更新認定施設数：65施設
 - 4) 2020年度教育研修施設の認定更新
2020年度教育研修施設認定更新は、なし。

- ② コントロールサーベイ（外部制度管理）は、2年に1度の為、2020年度は実施。
- ③ 認定施設の質を維持、向上させるため、選出した3～4施設に細胞診専門医・細胞検査士のチームで立ち入り調査（内部精度管理）を2020年7月～9月に実施予定。

6. その他前条の目的を達成するために必要な事業

- ① IACの資格更新や連携（合同シンポジウムの開催など）。
- ② ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループ。←研究課題名を入れる
- ③ IAC Yokohama System 乳腺細胞診ワーキンググループ。
- ④ 細胞診専門医教育研修指導要綱改訂ワーキンググループ。
- ⑤ 地域連携の活動。
- ⑥ 国際交流事業（日韓、日中、日タイ、日米との共催事業、豪州との人事交流、カンボジアへの支援を実施）。
- ⑦ 臨床試験の遂行

(ウ). 2021年度・2022年度、評議員選挙のスケジュールについて→通信理事会で決まったスケジュールを承認。通信理事会の議事録は2020年1月30日に2月3日締め切りで理事の先生方に回覧頂き、修正等のご指摘無く、承認されている。内容は以下の通り。

2019年度臨時理事会議事録

1 理事会の決議があったものとみなされた事項の内容

第1号議案 2021・2022年度役員選挙 評議員・理事選全国区・理事選地方区・理事長選挙スケジュール詳細（日程変更）について

2019年11月22日、理事長の佐藤 之俊が理事39名中39名に対し、上記理事会の決議事項について提案を發し、2019年11月29日に第1号議案に全理事から書面により同意の意思表示を得るとともに、監事からの異議がなかったため、当該事項の理事会での決議があったものとみなされた。

2 第1号議案を提案した理事

評議員選出委員会委員長 川本 雅司

3 議決権を行使することのできる理事の総数 39名

議決権を行使することのできる理事の議決権の個数 39個

4 理事会の決議があったものとみなされた日

2019年11月29日

上記のとおり、本法人定款第34条第2項により、理事会の決議があったものとみなされたので、これを証するためにこの議事録を作成する。

2020年1月30日

公益社団法人日本臨床細胞学会
議事録作成者 森井 英一

(エ). 宿泊費・旅費改定について→制度審議委員会〔審議事項〕③参照。役員（理事長、副理事長、理事、監事、各委員長）、非役員（それ以外）の交通費・宿泊費変更を承認した。

(オ). 秋期大会時の委員会開催について→学術委員会〔審議事項〕4参照。継続審議。

(カ). 細胞検査士セミナー講義の単位（25単位）をe-learningなどの対応で保証することについて→承認

以上で本理事会の議題が終了し、齋藤豪 副理事長の閉会挨拶をもって本理事会を終了した。

2020年 4月 11日

この議事録が正確であることを証します。

理事長 佐藤 之俊



監事 長村 義之



監事 佐々木 寛



監事 土屋 眞一

